

高鍋町のビジョン

# 地域再生への提言

高鍋商工会議所

地域再生プロジェクト委員会

## 町づくりにはビジョンが必要です

ビジョンとは「将来あるべき姿」「理想とする未来の状況」のことです。単なる目先の目標、目的のことではありません。中、長期的な視点に立ち、これから向かうべき方向を明確にするものであり、今は漠然としていても、様々な努力をすることにより、いつかは必ず達成できる理想の姿、理想の状況のことです。

高鍋町には沢山の意見、考え、価値観があります。何故なら、高鍋町には沢山の人たちが生活しています。しかも、様々な年齢、職業、趣味、家庭を持って生活しています。皆それぞれに、多種多様な生活をしているのです。ですから、人それぞれに、他の人と違った意見、考え、価値観が生まれてくるのも当然のことです。

しかし、バラバラな意見や考えのまま、様々な価値観に合わせて、場当たりの町づくりをするのでは、明確な高鍋町の方向性を決めることはできません。良い町づくりをするためには、沢山ある様々な意見、考え、価値観をひとつに束ね、大きな柱、大きなエネルギーに変えていく必要があります。

様々な意見、考え、価値観をひとつに束ね、明確な町づくりの方向性を決めるもの、それが「町づくりのビジョン」です。

## 高鍋町の町づくりビジョンを考える上で

高鍋町の中・長期的なビジョンを考える上で、最も重要なことは、他の地域、他の市町村にはない、高鍋町独自の強さ、優位性のあるもの、優れているところを明確にし、そこを核としたビジョンを創ることです。高鍋町にある、他の地域にない個性、特徴を活かしてこそ、高鍋町独自の、揺るぎ無い、個性ある町づくりビジョンは構築されます。また、次の三つの視点で核となる優位性をとらえておく必要があります。

- 1、高鍋町の強さ、個性、優位性はどうすれば町民のメリットとなるか
- 2、高鍋町の強さ、個性、優位性は競合する他市町村との差別性はあるか
- 3、高鍋町の強さ、個性、優位性は将来も継続性があるか

この三つの視点です。

高鍋町のビジョンを創るには、他の市町村にはない優れた個性、特徴、独自性を、揺るぎ無い核とし、「どうすれば町民のメリットになるのか」、「どうすれば差別性は増すのか」、「どうすれば長期的な継続性が可能なのか」を考慮しながら、「町づくりビジョン」を構築していかなければならないのです。

## 核となるもの

### 舞鶴城

舞鶴城は、「歴史と伝統の町」のシンボルとして、近隣の市町村にはない、優位性を持った、独自の個性、特徴を表すものであり、他の市町村では真似のできない、城下町としての気風を今に伝えています。

この気風こそが、高鍋町を文教の町とまで言わしめ、世に多くの優秀な先哲を数多く輩出させてきました。

また、舞鶴城跡の石垣の風景と水をたたえたお堀の風情は、高鍋町に住む人にとって、心和む「原風景」でもあります。

まさに舞鶴城こそは、高鍋町民の「心のふるさと」であり、高鍋町のビジョンを考える上で、揺るぎ無い柱、核となるものであります。

## テーマ

歴史と伝統文化の気風に溢れ、豊かな自然環境を活かした住み良い町づくり。

## 方向性

歴史と伝統の気風を活かし、文教の町の個性と精神を伸ばしながら、恵まれた自然環境を守り、教育、福祉、医療機関を充実させ、商業、交通、行財政における、県央の中核都市として、文化的都市機能を備えた、若者から高齢者まで、あらゆる世代にとって住み良い、環境保全型農業を实践する、自然環境都市を目指します。

## 中・短期的ビジョン

### ・ 町づくりの方向性を明確にし、すべての町民で共有化する

高鍋町の、明確な町づくりビジョンを構築し、文章化、図式化をはかり、町民に解りやすく広報し、理解を得ることにより、多くの町民の協力と賛同を得る必要があります。より多くの町民がビジョンを共有化することが成功への近道です。

### ・ 舞鶴城址公園とその周辺の整備、舞鶴城の復元

「舞鶴公園」を「舞鶴城址公園」と改名し、舞鶴公園が城跡であったことをより明確にし、資料館、美術館、武家屋敷の管理運営はNPO法人を設立することにより、民間の活力とアイデアの導入と、経費の削減も行うことが可能になります。

公園上段部分、お堀周辺の整備、また、高鍋農業高校の公園隣接所有地の改良整備により、駐車場の拡張を含め、隣接地の利用法は高鍋農業高校との連携を密にしていく必要があります。

舞鶴城の復元は、安易な目先の復元ではなく、学術的な価値のある復元を長期的に取り組んでいく必要があります。ただ、お城があったイメージを高め、城址への町民意識を高め、また現状の観光資源価値を高めるためにも、門、隅櫓(すみやぐら)等を早急に復元することが必要であると思えます。

### ・ 持田古墳群、高鍋大師の整備

持田古墳群は、高鍋大師と連携した「東都原」として大きな観光資源となる可能性を秘めており、小さな古墳群が連なる魅力を活かすため、ライトアップ、道路、案内板、トイレの設置等、公園化が必要です。

高鍋大師は、その素朴で自由奔放な彫刻群の芸術的価値を高く評価する人も多く、園内には「八十八ヶ所巡り」や「お宮」もあり、また展望する景観にも優れ、不思議な魅力に満ち、観光的価値は充分にあり、改良整備していくことが望まれます。

### ・ 歴史、伝統を生かした祭り、イベント等の充実

舞鶴城を活かした祭りやイベントは、大きな観光資源としてとらえる必要があります。特に、「高鍋城灯籠まつり」はさらに独自の個性を強めていく必要があります。お堀を使った「堀り床」のような、高鍋でしかできないアイデア等が加味される必要があります。

持田古墳群で行われる「古墳祭り」は、持田古墳群の整備と共に、「高鍋神楽」の舞い等を含め、観光資源としてさらに充実させていく必要があります。

町内には、集客力のある伝統的な神社の祭りもあり、観光イベントとしてとらえ、協力体制を広げ、さらに充実させていく必要があります。

## 自然環境の整備

蚊口浜を海浜公園として整備し、有名な天然牡蠣の育つ海の公園として、キャンプ、サーフィン、潮干狩り、海水浴場として、ブルーツーリズムを想定した、より楽しめるアイデアと整備が必要です。

小丸川、宮田川、お堀周辺等、水辺の環境整備が求められており、とりわけ、お堀周辺から美術館、舞鶴公園にかけては水辺の散歩コースとして、お堀と城下町の雰囲気を生かしたデザインで整備されることが望まれています。

また、脇地区から舞鶴公園前にかけての河川は、「蛭の名所」になる可能性もあり、蛭の増殖活動、蛭のための河川整備も求められています。

「四季彩の村」は、四季折々の自然と触合うことのできる農村公園として、集客力のある観光資源となるように、体験型農業等、グリーンツーリズムを意識した、高鍋温泉、高鍋湿原との連携もできるような活性化策と整備が必要です。

高鍋湿原は、サギ草等、魅力ある山野草や、ハッコウトンボ等、珍しい貴重なトンボの増殖も必要であり、また、魅力的な「山野草、トンボの資料館」の設置により、集客力を高めることも必要なことです。

これら自然環境の整備、管理、は「自然環境NPO法人」の設立により運営されることが求められています。

## 県央の商業集積都市を目指す

高鍋町は、児湯郡の商業の中心都市であり、現在でも様々なショッピングセンター等の出店もあって、古くから人の集まる地の利を持った町であります。区画整理、道路交通網の整備も含め、「人の集まる魅力」をさらに伸ばしていく必要があります。

商店街の空き店舗を含め、高鍋町の町づくりに貢献する地域、場所、空地に、魅力ある商店を出店する意欲やアイデアを持っている方に、積極的に協力してもらうため、高鍋商工会議所内に、公募、斡旋のための窓口を設けることも必要です。

## 環境保全型農業の推進

高鍋町独自の、環境保全型農業を提唱し、高鍋町の農産物の付加価値を高め、ブランド化を目指す必要があります。

「四季彩の村」は、高鍋町の推し進める有機農法、環境保全型農業の「PRのためのモデル農業地域」として位置付け、独自のアイデアとデザインによる積極的な取り組みをすれば、高鍋の農業、農産物のイメージアップ、ブランド化、さらにはグリーンツーリズムにも繋がる観光資源に育っていくものと思えます

高鍋農業高校、農業大学校、南九州大学等との連携、産学共同による、高鍋独自の農業、農産物の開発、販売、PR、ブランド化に取り組むことも必要です。

高鍋町内の学校給食は、高鍋の農産品が使用されるべきであり、子供たちに地産地消を教え、高鍋町の農産品の素晴らしさを伝える必要があります。

## ・ 歴史と伝統を活かした統一感のある街並みの創造

歴史と伝統の町の風情、文教の町らしい気風を、街を歩くだけで感じることできる、街並み、空間、景観創りが必要であり、行政自らが積極的に、町の未来をデザインし、その方向性を町民に提案し、高鍋町の未来の姿を町民相互で共感し合い、理想を共有化させていくことを急務とし、高鍋町独自の、統一感を持った街並みを創っていく必要があります。

## ・ 地場産業の活性化

企業誘致が困難な時代にあって、地場産業の育成は、「雇用の創出」「税収」「高鍋町のPR」「商工業の発展」等、高鍋町のまちづくりにとって、大変重要な課題のひとつであり、「地場産業の掘り起こし」「零細な地場産業企業の支援、育成」「高鍋町の歴史と伝統を活かした商品創り」「高鍋町の農産品を生かした商品開発」「産学協同による起業活動」「地場産品の販売」等、支援、育成、助成活動を積極的に行っていく必要があります。

## ・ 社交業、飲食業の活性化

高鍋町の社交業、飲食業は、質、店舗数ともに、児湯郡内において最も充実した内容であり、他の市町村からの集客力もあって、高鍋町においては重要な産業分野であると同時に、観光資源としても大変重要であり、「有名な高鍋天然牡蠣料理の育成」「地場産品や地元農産品を使った新たな郷土料理の開発、PR」「飲食店街、テナントビルの防災管理」等、健全な発展のための支援、助成、育成が望まれています。

## ・ 人材の育成

高鍋町の歴史、文化、自然の素晴らしさを、語り伝えることできる人材、語り部を育成し、観光ボランティアガイドとして、来町者、観光客に積極的に斡旋し、高鍋町のことを案内、説明をしてもらうことは、高鍋町のPRの上でも、また心のこもった観光をする面においても重要なことであり、できることなら「明倫ガイド」と命名し、高鍋町観光協会に窓口を設置するか、NPO法人の設立による人材の育成、運営も視野に入れておく必要があります。

美術館、資料館は、高鍋町内の美術愛好家や歴史愛好家、もしくはそのグループによって管理運営してもらうことも必要であり、そのための美術ボランティアの育成、NPO法人の設立も必要なことです。

## ・ 明倫堂精神を活かした独自の「ふるさと教育」の推進

歴史と伝統、文教の町にふさわしい、独自の「ふるさと教育」を考案し、高鍋町の歴史、自然、文化、先哲等を、高鍋町の子供たち(小・中・高生)に語り伝え、「ふるさとを愛する心」、「ふるさとを誇りに思う心」を育てていく必要があります。

また、高鍋東小学校を「明倫小学校」、高鍋西小学校を「十次小学校」と改名すること等による、町内外への積極的な投げ掛けも、「文教の町」高鍋町をPRする上でも、また歴史と伝統の町の気風創りにおいても必要なことです。

## ・ 南九州大学高鍋キャンパス跡地の利用

南九州大学は高鍋町にとって大変重要な資源、財産でありましたが残念にも都城市への移転が決まりました。しかし、高鍋キャンパスは残ります。その広大な敷地と多くの施設を今後どう利用するのか、それが大問題です。大学に任せるだけでなく、随時、大学側と協議をし、キャンパス跡地利用問題の意見交換を行い、積極的な支援、協力をしていく必要があります。

## ・ 農業大学校、ルピナスパークの利用

高鍋町にとって農業大学校は貴重な施設であり、その広大な敷地と施設の活用の仕方次第で高鍋町や周辺地域の活性化にとって大きな起爆剤になる可能性があります。広大な敷地のルピナスパークは「道の駅」による大型の物産品販売場建設も可能に思えます。また、広大な農地と最新の農業施設や 140 人の宿泊が可能な研修センターなどは今後期待される農業体験型観光に活用する提案をしていく必要があります。

## ・ 高鍋温泉「めいりんの湯」の活性化

「めいりんの湯」は、設備もまだ新しく、現在のところは入湯者も多く、経営内容も良いのですが、経営は継続していくことが最大の使命であり、長期的な視点での人材の育成、社員教育が求められています。また高鍋湿原、四季彩の村、その他高鍋町内の観光資源との連携、地場産品の掘り起こし、商品開発、売り場の活性化、イベントの開催等、町おこしへの取り組みを積極的に行っていく必要があります。

## ・ 体育、運動施設の充実

高鍋町の体育施設は、町内各場所に様々な施設が分散しており、一箇所に大型総合施設として設備や施設があるわけではなく、複合的な使用は不可能であり、他市町村と比べ、大きな体育イベント等の誘致には不向きな面もありますが、かろうじて、小丸川河川敷周辺の野球場やグラウンド等は利用価値もあり、大型の雨天練習場等の併設が可能であれば、プロスポーツのキャンプ誘致も不可能でもないと思われ、整備、改良、新設等、今後の総合的な改善計画の立案が必要となっています。

## ・ 歴史遺産の掘り起こし

高鍋町には、歴史的意義、学術的価値等の認識をされていない、歴史遺産が数多く残っています。早急な調査と、確認作業が必要です。特に、勘右衛門水路は貴重な歴史遺産であり、これからの町づくりに取り入れることも求められます。

## 長期的ビジョン

### ・ 東児湯五町合併のランドデザインを描く

地方分権による広域的な視点に立った地域の活性化が求められる今日、高鍋町は東児湯五町(高鍋町、新富町、木城町、川南町、都農町)合併の中心的役割を果たす必要があり、合併に向けての合併協議会を設置し様々な意見交換により合併後のランドデザインを描く必要があります。

### ・ 舞鶴城の復元とその周辺の整備

舞鶴城は、可能な限り史実に忠実に復元していき、後世への貴重な資料、史跡とすることが望まれており、周辺のお堀や歴史的な風情を保っていくための整備も含め長期的に取り組んでいく必要があります。

### ・ 高鍋農業高校と農業大学校との融合による移転

高鍋農業高校と宮崎県農業大学校が融合することにより、両校の施設の共有化が行われ、高校、大学校と一貫した、より高度でより専門的な一貫教育のできる、農業教育機関が高鍋町に誕生することは、大変意義あることです。

高鍋農業高校が農業大学校の広大な敷地に移転して残った跡地は、舞鶴公園の隣接地でもあり、歴史的遺産も多く、高鍋町の歴史と伝統を生かした町づくりをする上でも、また高鍋町の観光資源という意味においても、大変有効な整備と開発が可能になってきます。県、学校への要請、嘆願が急務であります。

### ・ 高鍋駅とその周辺の活性化

高鍋駅は、高鍋町の入り口として、交通の要所であり、駅に降り立つ人へ大きな印象を与える場所でもあり、海浜公園に直接つながる海側出入口の設置、町の案内、南九州大学への交通アクセス、蚊口地区の活性化等を含め、総合的な改良と開発が求められます。

### ・ 県央の商業集積都市としてのデザインを描く

現在も高鍋町は児湯郡の商業の中心地ではありますが、将来は宮崎県を代表するような商業集積都市へと成長するために、長期的な視点に立って、区画整理、交通網、開発のあり方、方向性を考案し、実践していく必要があります。



- ・ 「文教の町 高鍋」学園都市としてのデザインを描く

「文教の町 高鍋」、将来もそう言われ続けるには、そのための努力と目標が必要であり、今後どのような制度、施設、機関、学校、開発のあり方、方向性が必要かを考案し、誘致活動等、実践していく必要があります。高鍋商工会議所内に町内の教育機関を網羅した学園都市協議会が設置してあり意見交換をしながら学園都市としてのビジョンの構築が急務です。

- ・ 「シルバータウン」福祉都市としてのデザインを描く

これからの高齢化社会を考慮し、高鍋町の温暖な気候、海山川が身近にある自然環境、風土、人情、住みやすさ、生活しやすさ等を活かし、大都市の高齢者を視野に入れた老人福祉の町をデザインし、制度、機関、バリアフリーの施設、設備、開発のあり方、方向性を考案し、実践していく必要があります。

- ・ 蚊口浜海浜公園のデザインを描く

蚊口浜を中心にして、堀の内の浜、小丸川河口、松林を含めた海浜公園化が望まれており、「アカウミガメ、天然牡蠣、海の小さな生物を集めた小さな資料館」の設置、潮干狩り、海水浴、サーフィン、アカウミガメの観察、キャンピングが楽しめ、有名な天然牡蠣料理を食べることができる、総合的な海浜公園の考案も長期的には必要です。

高鍋駅には、蚊口浜海浜公園口という名前の、海側の改札口があり、そこから海浜公園へ行くことも望まれます。

- ・ 東都原公園のデザインを描く

持田古墳群から高鍋大師周辺を「東都原公園」と命名し、古墳群の整備、展望台、古墳資料館、夜間のライトアップ施設、高鍋大師等からなる、古代をテーマにした公園の考案も長期的には必要です。